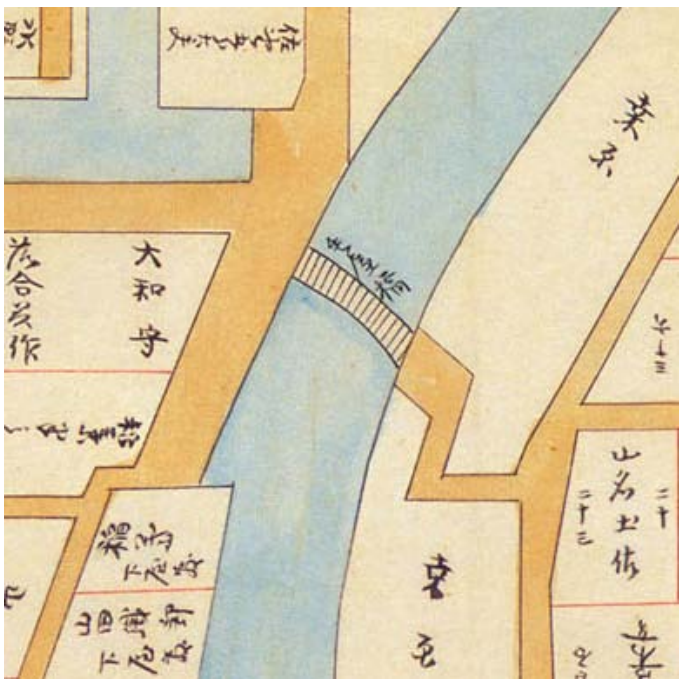
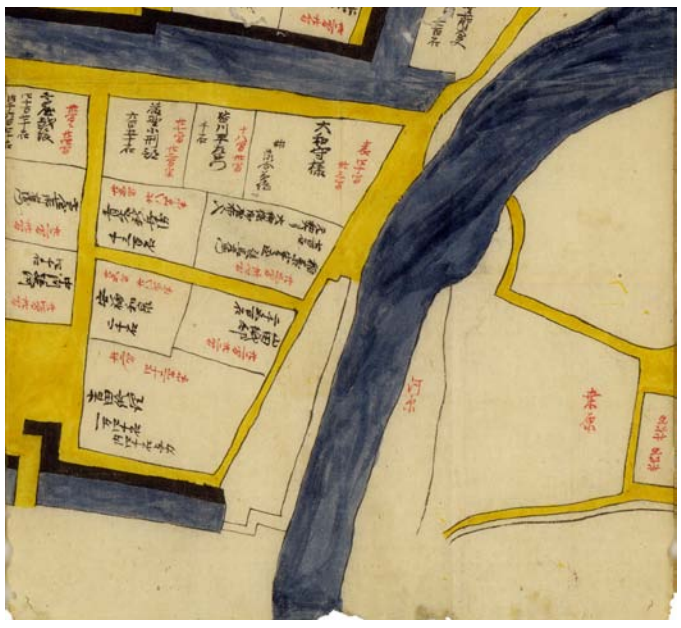
絵図のヒミツ～毛屋橋～

慶長 17～18 年（1612～13）頃に描かれた絵図には、原本は確認できませんが数種類の写図がのこされており、同じ絵図の写図と考えられています。ところが、そのうち浅井家にのこされた「慶長御城下絵図」Ⓓと、それを書き写した「越前北ノ庄城ノ図」Ⓔには、ほかの絵図にない点がみられます。

左下： Ⓐ「(北之庄城郭図)」松平文庫 1309（M73-1）
福井県立図書館保管
中下： Ⓑ「福井御城下之圖」明治大学図書館所蔵芦田文庫
右下： Ⓒ「寛文十年之圖；寛文十年福井城下ノ圖（袋）」
明治大学図書館所蔵芦田文庫



Ⓐの絵図に「毛屋橋」と記された橋の場所は、現在の幸橋付近です。Ⓑには「毛ヤノハシ」とありますが、「本書ノマヽ　村田氏春云此橋ハ書写之誤成可シ」（もとの図のままとしたが、村田氏春がいうには、この橋は書き写した際の間違いだろう）と書かれています。ⒶⒷⒸの絵図が写されたのは幕末。その当時、この場所には橋はなく、繰舟（川の両岸に綱を渡して通る舟）での往来がなされていました。『越前国名蹟考』によると、繰舟は 1686 年（貞享 3）に中断しますが、1739 年（元文 4）に再開されています。



ⒹⒺの絵図には、上の絵図にみられる橋の模様は描かれていないことがわかります。八百里（やおり）もしくは権十郎が割愛したと考えられます。

左： Ⓓ「慶長御城下絵図」
森永与右衛門家文書 A0029-00050（整理中）
右： Ⓔ「越前北ノ庄城ノ図」松平文庫 1310（M73-2）福井県立図書館保管

これらのことから、慶長期に橋は存在していましたが、いつの頃からかなくなって繰舟の渡しとなり、やがて橋はもともとなかったと考えられるようになったと思われます。そしてⒹⒺの絵図は、当時誤りと思われた橋を割愛し、適宜修正したものと推測されます。ただし、慶長期に橋が存在していたことを明確に示す他の資料は発見されていません。

このように幕末と慶長の頃の城下には、橋の有無だけでなく、いくつもの違いがみられます。幕末にこうした写図を持っていた人びとは、当時とは異なる、藩祖秀康入城間もないはるか昔のようすを思い浮かべ、貴重な情報が記されたお宝としてこの絵図を眺めていたのではないでしょうか。